

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる		今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける		
年 度 当 初							
評価項目	評価の具体項目	現状(平成30年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	評 価 結 果 (9) 月		
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちのよい挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・84%の生徒が鳥商に入学してよかったと回答。(学校生活アンケート) ・98%の生徒が正しい身だしなみを実践、93%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、日常的に挨拶できている生徒の数は減ってきている。また学校外でも身だしなみを整える意識を高める必要がある。 ・95%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アンケート) ・93%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・89%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活アンケート) ・91%の生徒が安心で安全な学校生活を送れていると回答。(学校生活アンケート) ・75.6%の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均 0.55件、一人あたり0.54回。 ・QUアンケートを年間2回(3年生は1回)実施。結果を教育相談員と共有し、気になる生徒については個別に相談しながら対応した。教育相談員との面談件数(生徒、保護者、教員)は延べ87件。	・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数が年間0.4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちの良いさわやかな挨拶が自らできている。 ・学校内外を問わず制服の正しい着こなしができています。 ・地域社会から信頼と信用を得ている。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面に応じた言動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、集団に貢献している生徒が90%以上。 ・安心で安全な学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上。	・鳥商での学びが将来の職場での仕事や上級学校での学びにどう結び付き活用できるのかを、体験活動をおして理解し実感できるようにする。 ・日常生活における挨拶、正しい身だしなみ、規律遵守などの指導を継続。 ・学校外での行動や態度が地域社会からの学校全体への信頼に影響することを強く意識させる。 ・生徒自身が鳥商生としての誇りを持ち、自分たちで学校を活性化する意欲を高める取組を実施する。 ・学校行事、学年行事など学校、学年、クラス単位で取組む活動において、各自が当事者意識をもって参加する意識を高める。 ・学校生活アンケートを継続して実施する。 ・QUアンケートを実施するとともに、日々の観察の中で気になる生徒については教育相談員と連携しながら対応していく。	・1年生に対しての商業教育の導入としてビジネス基礎研修を4月に実施。鳥商での学びのカタチ、目指す姿、2、3年生での体験活動などを説明。鳥商で学ぶことと実社会との関連を話し、また鳥商に対する地域からの期待度の高さを伝え、日々の挨拶、身だしなみ、規律遵守が高い評価につながっていることを意識させた。 ・2、3年生に対しては商業学科集会で再度鳥商教育の目的、上級生としてあるべき姿を伝えた。 ・挨拶について上級学年になるべくできるようにするが、生徒によって差があり学校全体としては十分ではない。また学校外での行動や身だしなみに対する意識をより高める必要がある。 ・学校活性化事業として岡山東商と倉敷商の定期戦、倉敷商の応援練習を生徒代表が参観し全校で報告会を開催した。学校全体が一体となつての応援は迫力があり自校への誇りが強く感じられ大きな刺激になった。 ・9月末までの遅刻統計は1日平均2.47(1.18)件、生徒一人あたり0.4(0.2)回。()内は昨年度同期。遅刻連絡カードを活用しての指導を継続する。 ・5月に全学年で、9月に1、2年生対象にhyper QUアンケートを実施。結果や日常の観察を基にして教育相談員と連携しながら気になる生徒に対応している。	C	
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。					C	
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・キャリア教育全体計画に基づく体験活動を予定どおり実施。1年生ビジネス体験実習(10月10日から12日まで)、2年生研修旅行(同期間中)、3年生第25回鳥商デパート(12月1日、2日)を中心としてそれぞれの活動について事前指導事後学習を含めて実施できた。就職、進学に関して卒業生、外部講師を招いての講演会、マネー指導、面接指導なども実施し進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを計画に沿って実施。各種講演会においては謝辞を生徒代表に行わせた。3年生に対しての論文指導、全職員での面接指導を実施。就職内定、進学合格率とも100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を多数者を前に発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が79人(75人)であり取得率は41.4%(41.6%)、1級未取得者は6人(7人)。()は一昨年度。1級7種目取得者2名(3年1名、2年1名)。経産省基本情報技術者試験2名(2年)合格。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で商業科目の補習を実施。3年生は進学希望者を対象に普通教科の平日補習を実施。(8月6～9日)を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(8月6～9日)を実施。 ・1年生対象に4年制大学見学会(12月3日関西大学、甲南大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を鳥取大学で開催した。 ・2年生勉強宿舎は希望者少数のため実施できなかった。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等が受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身についている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。	・平成31年度キャリア教育全体計画に従って事業、行事を実施する。実施後は振り返りをする。 ・自己表現力を高めるために必要な知識量(語学力、社会事象についての知識など)を増やす。 ・3年生への面接指導、小論文指導を継続。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等が受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身についている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。	・全体計画に従って予定したほぼすべての体験事業、行事が実施できた。実施後の振り返りをおしての成長を期待したい。 ・自己表現力育成プログラムを継続して実施中。今年度は鳥商手帳の活用も表現力のひとつとらえプログラムに加えた。3年生への自己表現力育成講演会を実施。 ・3年生への小論文、面接指導は全職員で取組んでいる。	・キャリア教育全体計画に従って事業、行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを計画に沿って実施。講演会の謝辞を生徒に行わせる。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施。 ・鳥商手帳の内容の改訂。	B
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。				・9月に英語検定週間を設けて補習を実施した。9月末現在の時点で3年生の全商1級3種目以上取得者は40人(38人)、2種目が61人(64人)である。()は昨年度同期。 ・全学年で夏季休業期間中に補習を実施。延べ203人が参加。(昨年度134人) ・3年生の進学希望者(大学・看護系)への希望者模擬試験を実施。 ・公務員志望者(全学年)へは7月31日(水)～8月2日(金)に公務員セミナーを校内で実施。外部より講師を招いて実践的な学習を行った。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を校内及び鳥取大学で開催した。さらにフォローアップとして面接指導を実施した。 ・1年生勉強宿舎は、日程確保の難しさ、働き方改革の観点から実施せず。	B	
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【健康に留意する】 ・基本的な生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送っている。	・79%の生徒が運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送り、84%が授業に集中できていると回答(学校生活アンケート)している一方で、就寝が午前0時以降の生徒が41%(217人)、睡眠不足を感じる生徒が61.3%(325人)(健康に関するアンケート)もいる。睡眠不足により体の不調を訴える生徒には個別指導を行っているが生徒自身の自己管理能力が不十分。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・健康教育LHRを1回実施。昨年度は精神面の健康管理について意識を高める機会を設定。 ・体育祭で1年生全員による商高体操を披露。また全校強歩大会を実施。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活が送れている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ体力向上に努めている。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。	・学校生活アンケート、健康に関するアンケートを継続して実施する。 ・生活習慣について個別指導を行う。 ・健康教育LHRを2回実施する。 ・商高体操、強歩大会など体育行事を継続して実施する。 ・体育実技でも基礎体力を高めるメニューを継続して取り入れる。	・新体力テストのアンケート集計から、朝食の摂取状況や就寝時間を把握し、健康指導に活用している。 ・春にインフルエンザが流行した際、消毒や手洗いの環境を整備し、啓発を図った。 ・保健だよりを1回発行し、感染症予防、熱中症予防の啓発に努めている。 ・体育活動、行事を計画どおり実施できた。	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続するとともに、個々の実態に応じて必要な支援を行う。 ・感染症予防など他人事でなく、各自の予防意識が大切であることを認識させる取り組みが必要。 ・強歩大会を10月18日(金)に実施する予定。 ・生徒保健委員会主導で12月5日(木)に健康教育LHRを実施予定。	B
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取組み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年113分(143分)、2年112分(162分)、3年106分(156分)と大きく減少。()は一昨年同期。10月平常時の自宅学習時間は1年75分(49分)、2年30分(44分)、3年53分(48分)であった。クラス間の差が大きい。 ・11月12日に授業改善に関する研修会及び公開授業を実施。現代社会、簿記を授業公開。 ・11月15日にエキスパート教員公開授業(商業)を実施。	・商業科目・普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・期間を限定しながら毎日の学習時間と内容を記録させる取組を計画する。 ・部活動に全生徒が加入し学習との両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・1学期期末考査前1週間の自宅学習時間を調査。昨年同期より各学年とも時間が増加した。1日平均で1年113分→140分、2年112分→145分、3年126分→129分。 ・前期授業アンケート結果から、各学年とも復習出来ていない点が課題。 ・一部のクラスで毎日自学学習時間を記録し振り返らせている。	C		
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の着こなし、丁寧な言葉遣いができる。	・定期的な服装頭髮指導に加え、日常的に学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等指導を行った。全校集会等の場面でも注意を喚起している。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手を配慮した言動が取れている。 ・学校評議員会、学校関係者評価委員会を3回実施。産業界、教育界、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・マネーアップさわやか運動をPTAと協力して2回実施。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じた適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第26回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・学校生活のあらゆる場面で指導を継続。職員全体の意識を細かなところにも向ける。 ・6月26日(水)に第1回学校評議員会・学校関係者評価委員会を開催し、各々から意見を求め学校改善に活かす。 ・PTAと協力してのマネーアップ運動等を実施する。	・定期的な服装頭髮指導だけでなく、学校生活全般で頭髪・身だしなみの指導を実施しているがまだ改善の余地はある。 ・6月26日(水)に第1回学校評議員会・学校関係者評価委員会を開催し各委員から意見、提言をいただいた。 ・4月、9月にPTA生活指導部と協力してマネーアップ運動を実施。	・身だしなみ、頭髪、挨拶などマネー指導はビジネス教育でも行う。端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・第2回学校評議員会・学校関係者評価委員会(授業参観も含む)を11月12日(火)に開催する。	B
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・第25回鳥商デパートを開催。全学年生徒が参加し保護者にも協力いただいた。好天もあり売り上げ13,820,964円、来場者数10,336人と過去最高であったが、お客様満足度は94%で昨年度よりやや下がった。2月14日には成果発表会を開き協力企業、学校評議員会、学校関係者評価委員の方々へも公開し、県教委指導担当に講演をいただいた。 ・2月末時点での図書貸出し冊数は延べ3,030冊。一人あたりにすると5.5冊と一昨年度より増加した。授業での利用時間数は313時間(一昨年度同期は244時間)となり大幅に増えた。英語授業での利用増による。	・鳥商教育の集大成である第26回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・4月全体集合指導で集合・整列の形態について説明。以降の全校集会、全体集合で実施。概ねよいが列を自分たちで整えられるまで至っていない。 ・チャイムと同時に授業が開始できる態勢づくりに改善の余地がある。 ・第26回鳥商デパート経営委員会を発足させ、7月3日(水)に第1回、9月27日(金)に第2回取締役会、9月30日(月)に設立総会を開催した。準備を進めているところ。 ・9月末時点での図書貸出冊数は延べ2276冊。一人あたり4.2冊(昨年度同期3.3冊)。授業での利用時間数は211時間(昨年度同期151時間)。 ・1、2年生の図書館利用は昨年度より大幅に増えたが、3年生は減少している。	・全体集合指導を継続する。生徒自らが迅速に集合するようお互いに働きかけられるように促す。 ・教室整備を含め授業規律をより一層徹底する。 ・11月に鳥商デパートマネー講習会を実施するなど経営委員会主体で準備を進める。 ・図書館利用を引き続き促進する。	・エセックス高校担当者や交流計画についての来年度の事前協議のため担当者2名を派遣する。 ・海外交流事業参加への積極的な応募を勧める。 ・12月実施全商英検での1級受検、実用英語検定の準2級以上の受験を勧めつつ、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・習熟度別授業の継続を県教委に依頼。	B
5. 業務改善の取組	○校務分掌・任務分担の見直し	・複数の分掌に関わる案件についての連携がとりづらく、勤務時間の長時間化につながっている。 ・ネットワーク上のフォルダが整理されておらず、業務の効率化が図られていない。	・月当たりの時間外業務を平成30年度比で10%削減化につながっている。 ・ネットワーク上のフォルダが整理されておらず、業務の効率化が図られていない。 ・休養日などを設定した各部の活動方針が徹底されていない。	・夏季休業中の緩やかな開庁日の設定。 ・校務分掌の合併、専任者の増員による業務の削減。業務アシスタントの導入と活用。 ・校内掲示板の活用とフォルダの階層化の推進。 ・部活動方針の徹底と月別活動計画及び実績の提出の徹底。	・業務アシスタントの配置により、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に専念できている。 ・校内掲示板がノーツに移行し、活用方法が定着しつつある。	・担当分掌を限定せず、業務アシスタントの幅広い活用を進める。 ・校内掲示板の活用をさらに推進する。	C
	○長時間勤務者の解消				・部活動の月別計画と実績表の様式を改善し、時間外の指導時間や休養日の設定状況の把握に努めている。	・部活動の月別計画と実績表を活用し、各部の事情に応じた部活動の休養日の設定のしかたについて検討を進める。	
評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:実質の未達 D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]							